

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース) 留学結果報告書

平成29年9月30日の帰国をもって、私の留学を修了したことを報告する。留学結果から、私が想像し予定していた留学とは違うものであった。しかし、私なりにウェディング関係の方やホテルウェディングを行っているホテル関係の方、浴衣・着物を中心に和服を海外に広めようと活動している方とコンタクトを取り、インターンシップや話を聞く機会を頂けるように行動した。その活動内容と様々な活動を通じて学んだことを今後どのように活かしていくかを報告する。

留学期間中に行ってきたこと

1. 語学学校について

昨年、平成28年11月10日から平成29年3月17日の約4ヶ月間、山梨県立大学の協定校であるスウィンバン工科大学(Swinburne University of Technology)の附属英語学校の一般英語(General English)コースで学んだ。私の英語能力は乏しく自信がなかったため、インターンシップやこれからの留学生生活を有意義にするために4ヶ月間しっかりと英語を学び、オーストラリアに渡った初めのころよりも英語力も伸び、自信も持てるようになった。また私が通っていた語学学校は大学附属の語学学校であったため、現地の学生とも活動する時間も多く作ることが出来た。中でも私は現地の学生が多く所属するジャパニーズクラブに所属し、毎週行われるクラブメンバーとの会話、月に2回ある日本にまつわるイベントに参加した。

私が語学学校で勉強をしている間、拠点としていたメルボルン内で日本に関する一番大きな祭り「Melbourne Japanese Summer Festival なつまつり」が開催された。私が在学する山梨県立

大学は二年前からこのなつまつりに店舗を出している。今年も店舗を出したので、私も参加させていただいた。今年山梨県立大学の学生は、印伝屋の商品の展示や市川三郷町の和紙を使った扇子やうちわをはじめとする山梨県の伝統工芸品のプロモーションを行い、私はその商品の紹介販売の手伝いをした。他には山梨県庁から頂いた山梨県のパンフレットの配布・説明を務めた。現地の人と話をしていると私が知らない情報を知っている方や、温泉に調味料の方が多くいたという印象を持った。アニメやファッションなどの日本のサブカルチャーだけでなく、日本伝統工芸品や温泉など日本古来の文化や観光資源は、海外の方が興味をもってくれる対象なのだと改めて実感した。



山梨県若者海外留学体験人材育成事業 (大学生等コース) 留学結果報告書

2. ウェディングの専門学校について

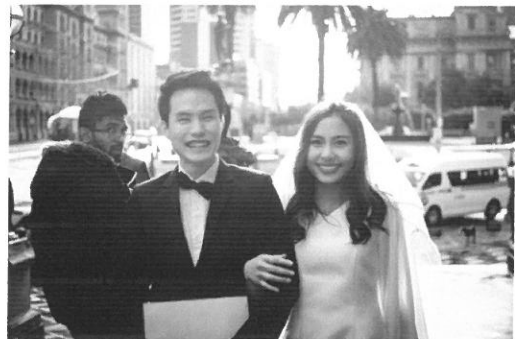
2017年3月17日をもってスインバンでの語学学校での勉強を終えた後、私はシドニーにあるウェディングの専門学校「M's Floral Studio」に入学した。この学校では、キリスト教式・神前式などウェディングの基礎情報をはじめ、海外と日本のウェディングの相違点や海外ウェディングの挙式までの流れについて学んだ。主に、私の学習目的である他宗教間のウェディングについての知識を深めることが出来た。さらに、欧米のウェディングのあり方や、マルチカルチャーであるオーストラリアのウェディング事業についての知識も深めることが出来た。
*全米ブライダル・コンサルタント (ABC) 協会認定のウェディング・プランナー検定1級コースを受講し合格することができた。

*全米ブライダル・コンサルタント (ABC) 協会

<http://www.bridalassn.com/Default.aspx>

約半世紀の歴史があり世界中で活躍するウェディング・プランナーやブライダル・コンサルタント、ブライダル関係業種の活動組織。現在、アメリカ全州、カナダ全州をはじめ 6大陸、40カ国で約6000名のメンバーが在籍しており世界で最も大きく権威のある協会である。

また、私がメルボルンで出会った友達がメルボルンで式を挙げた。彼らはタイからの留学生で現在はメルボルンの大学に通っている。彼らの宗教は、仏教で私たち日本人と同じである。だから宗教的観点から考えて、海外で挙式をすることに対しても寛容であり難しくないのだと考える。彼らに話を聞いた。



- ・ どうして海外挙式を選んだのか。
ー彼ら (タイ人) のビザ条件で、海外で結婚することが出来、将来は永住権を得ることが出来る。多くのタイ夫婦は結婚し将来はオーストラリアに残る人が多くいるという。
- ・ 海外挙式をするのに何か問題があるのか。
ータイにいる友達や親族関係者を招待するのが大変だった。



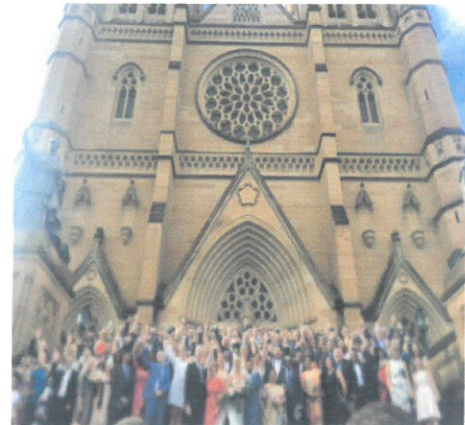
と答えてくれた。参加していた彼らの友達も私と同じ学校の人も多く、とても素敵な式であった。

さらに私は、ウェディングの専門学校に通っている間に、シドニーにあるセントメアリー大聖堂で結婚式があった。キリスト教には大きく分けて、プロテスタントとカトリックがある。カトリックは一般に戒律が厳しいため、信者以外の挙式が行える協会は少なくないが、プロテスタントの教会は信者以外でも挙式を行えるところが増えている。セントメアリー大聖堂は、キリスト教のカトリックの大聖堂である。そのためカトリックを信仰している人のみが式を挙げるこ

山梨県若者海外留学体験人材育成事業 (大学生等コース) 留学結果報告書

とが出来、条件も厳しい。

異宗教であった新郎新婦が結婚式を挙げていた。そのため、信仰者以外が教会で式を挙げる事が出来るように礼拝出席や結婚講座などに通っていたそう。その面、日本の伝統的な神前式は宗教的な縛りはそこまで厳しくなく。私の留学のテーマであった和婚を取り上げた際に直面する宗教間について学ぶ事が出来た。初めてみた大聖堂での結婚式はとても素敵なものだった。



3. ホテルインターンシップについて

2017年4月25日から8月23日の約4ヶ月間、キャンベラにある「Rydges Capital Hill」というホテルでインターンシップを行った。インターンシップ先を決める際に、私は条件として結婚式事業を行っているホテルでインターンシップを行った。結果から申し上げると、私はホテル内でウェディング関係のインターンシップを行うことはできなかった。オーストラリアの時期が冬であったため、私がインターンシップを行っていた4ヶ月間、挙式をしたカップルは一組しかいなかった。私の最初のポジションはハウスキーパーであった。他の人よりお客さんと関わる機会は少なかったが、お客さんと接しお話をしたり、お礼を言われたりしたときはとても嬉しかった。お客さんからのメッセージカードで私のことが書いてあった時は、自信も持てたし頑張っていてよかったと感じた。私が思っていたようなインターンシップはできなかったが、Rydges というオーストラリア国内でも有名なホテルでインターンシップを行うことが出来てよかった。

留学生活で学んだこと

本報告書のはじめに記載したように私は本留学で私自身が考えていたような留学生活を送ることが出来なかった。3月に語学学校が終わった後、私はゴールドコーストでウェディングに関するインターンシップを行う予定であった。しかしオーストラリアは冬季に入ってしまうため、ウェディングを行う人も多くなく、インターンシップの需要がなかったため、当初予定していたインターンシップのエージェントに断られてしまった。また、卒業研究に向けて和婚に関するアンケートや多国籍・異宗教間のウェディング調査を実施しようと考えていたが、私自身卒業研究の内容がまとまっていなかったことと、知識不足で研究結果の仮定を立てることが出来ずにアンケート調査等を行うことが出来なかった。

このような環境下の中でも私はその環境を変えられるように努力した。まず卒業研究のため多国籍・多宗教の方にアンケート調査を行いたいと考えていた私は、人脈を広げようとメルボルン内の様々なイベントに参加するように心がけた。その中で、和服や日本舞踊を世界に広めようと活動している方と繋がる事が出来た。また、私がメルボルンで出会ったタイ出身の友達の結婚式を見る事が出来た。さらにウェディング会社でのインターンシップを行うことが出来ないといわか

山梨県若者海外留学体験人材育成事業 (大学生等コース) 留学結果報告書

った時に、ウェディング事業を取り入れているホテルでインターンシップに挑戦しようと考えた。悩み、もがき、何をしたいのかわからなくことも多くあった。しかし私には、私が何を学び、何をしたいのか一緒に考えてくれる友達や家族がいたため、乗り越えることが出来たのだと思う。

私は留学へ行く当初、自分がしていることやしてきたことに対してあまり自信を持つことが出来なかった。英語力も乏しく、したいことがあってもどのように行動していいのかわからなかったからだ。時間が過ぎていく中でも、悩みながらも、様々なことに挑戦し、自分自身の経験を増やせるように積極的に行動することが出来た。私は、自分自身の成長につながったと感じている。

今後の予定について

私は、帰国してやりたいことがふたつある。

ひとつ目は、卒業研究で私の留学テーマである「外国人を対象とした日本式結婚式や山梨県ならではのブライダルツアーを実現するために調査・研究し、本県の特徴を活かした新たな着地型観光事業を創出する」を再度研究し、より実現できるように実際に外国人観光客を対象としたブライダルツアーを研究する。留学中に達成することが出来なかった、多国籍・多文化・多宗教間でのアンケート等を利用した調査を実施するとともに、問題点・課題点を踏まえて考えていきたいと考えている。日本古来の文化「和」をモチーフにしている衣装や雑貨は、外国人観光客に人気もあり、需要が高いと留学を通じて感じる事が出来た。また、メルボルンでのなつまつりを通じて、山梨県に多くの魅力を感じてくださる外国人の方も多くいると知ることが出来た。山梨県の魅力を考慮に入れ研究を進めていきたい。

ふたつ目は、実際にブライダルツアーを提案したいと考えている。海外から日本に足を運んでくださる外国人観光客が素敵な時間を過ごせるようなブライダルツアーを提案出来たらと考えている。この提案が、どのくらい山梨県に貢献できるのかはわからない。実際に、日本でこのような外国人観光客向けのウェディング活動が行われているかはわからない。新たな観光産業につながってほしいと考えている。

私にこのような様々な経験をさせていただきありがとうございました。結果的に私が想像していた留学には、程遠い結果になってしまいましたが、その中でも多くのことを学ぶことが出来ました。この経験を活かしてこれからも山梨県の地域振興に貢献できるように精一杯取り組みます。